

2019年5月28日

DENSO KOBELCO SARD LC500 第3戦鈴鹿、執念の5位フィニッシュ



2019 SUPER GT 第3戦「SUZUKA GT 300km RACE」(5/25-26)

鈴鹿サーキット(1周5.807km)

入場者数：予選21,000名、決勝36,000名 合計57,000名

5月26日（日）、シリーズタイトル争奪を懸けた前半戦のヤマ場となるSUPER GT第3戦「SUZUKA GT 300km RACE」の決勝が行われ、9番グリッドから粉骨砕身に勝利を目指していったDENSO KOBELCO SARD LC500は、スタート担当のヘイキが序盤に前を塞いでいた2台をかわして自己ベストを更新しながらハイペースで前を追いかける展開。18周目にセーフティカー（SC）が導入される波乱の中で再開後の24周目にピットイン。一時順位を落としたが、交代した中山も徐々にペースを掴み前走車を猛追。最後まで諦めない走りを見せて執念の5位フィニッシュを果たした。

ドライバーポイントでは6点を獲得（計14点）でランキング7位、チームポイントでは9点を獲得（計23点）してランキング6位となった。次戦、2年連続の優勝を目指して戦う第4戦は、6月29日（土）・30日（日）にタイのチャン・インターナショナル・サーキットにてシリーズ唯一の海外戦として行われる。

■公式練習走行



前戦富士では激闘の末に惜しくも4位となったDENSO KOBELCO SARD LC500。毎レース波乱のシーズン前半戦における国内最後のレースと節目の第3戦は、鈴鹿サーキットが舞台。公式予選はノックアウト方式（Q1、Q2）、決勝は300kmでピットストップは1回。搭載するウェイトハンディは現獲得ポイントの倍数となる16kgとなる。鈴鹿は歴史的にも国際的にも有名なテクニカルなドライバースーパークット。チャレンジングなコースは、特徴的なコーナーが連続しており、全長約5.8kmと長めで世界的にも珍しい8の字形のレイアウトで数多くの伝説的な名シーンが生まれてきた。

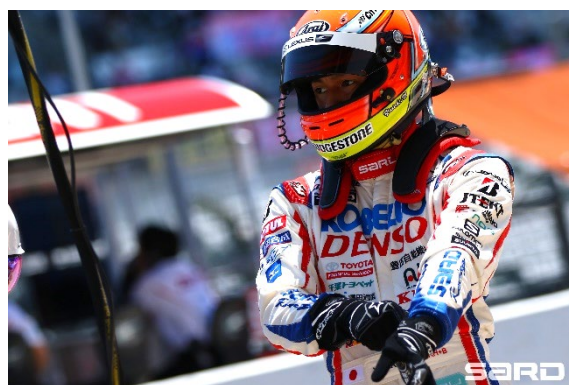
ここまでチームは現在ランキング6位ながらも周囲とのポイント差は無く、ここで勝利を得てトップを捉えて後半戦へとつないでいきたいところ。各車速さが非常に拮抗しているため、まずは僅差の予選で少しでも上位のスタートポジションを得たい鈴鹿。大会告知ポスターにはDENSO KOBELCO SARD LC500が毎年の様子に描かれるなど期待も高く、またチームの本拠地が近いためスポンサー企業様の応援団も大勢で来場、心強い声援も受けている。シリーズタイトル争奪を懸けた前半戦のヤマ場となる鈴鹿。チーム一同、ランキング上位浮上を狙い、粉骨砕身に勝利を目指していった。

25日（土）午前中の公式練習走行は、初夏の快晴で真夏のような日差しが照りつけ、朝から気温25度/路面温度34度と上昇していった。8時50分から混走セッションが開始され、ヘイキがソフト系のドライタイヤを装着して、いつも通りタイヤとクルマのセット調整しながら14周ほど確認走行をしていた。赤旗中断の後にハード系のタイヤを装着して比較。続いて21周目から中山がヘイキが確認した2種類のユーズドタイヤを装着してクルマとタイヤの確認を行った。26周目からは中山がハード系のタイヤでアタックシミュレーションを実施。この混走セッションは最後のアウトイングで中山がマークした1分50秒285の11番手に。10分間のGT500単独セッションでは、再び中山がアタックシミュレーションを実施し1分47秒490の4番手タイムをマーク。公式練習走行ではトータル37週の走行で4番手とまずまずの速さを見せた。サーキットサファリでは決勝状態でのクルマのチェックをピット作業の練習を間に入れながら8周行ってQ1への準備を終えた。

■公式予選

■Q1：中山が惜しくもQ2進出ならずの9番手に

25日（土）Q1開始時点で気温28度/路面温度41度と、いっそう暑さが厳しくなった中、残り7分30秒ほどでコースイン。前戦と同じくアタッカーに指名された中山は、公式練習走行でのタイヤの状態やフィーリングなどから分析してソフト系タイヤを選択。ウォームアップ中に前走車に追いついてしまう不運があったが、4周目にアタックに入った中山はセクター1で29秒台の好タイム、セクター2で若干遅れたが、セクター3も上位タイムとなる39秒台を叩き出す。セクター4はトップタイムと気迫を見せて1分46秒949のタイムをマークするも、惜しくも僅か約0.02秒差でQ2進出を逃す9位となった。



■決勝

■ウォームアップ走行

26日（日）は、予選日より湿度を感じる快晴。12時55分から始まったスタート前20分間のウォームアップ走行は、気温28度/路面温度37度のコンディション。まずスタートドライバーを努めるヘイキが決勝第2スティント用のタイヤを皮むき。次に決勝スタートタイヤと同じ種類のユーズドタイヤに交換して計6周を走り終えピットイン。交代した中山は、3周ほどではあったが決勝セットの確認走行を実施。トータル9周を走行して1分51秒352の5番手タイムで決勝への準備を整えた。

■決勝レース

第1スティント：ヘイキが好走で7位にポジションアップ

26日（日）夏の陽気の真夏日となった14時30分決勝スタート時点は気温29度/路面温度38度に。9番グリッドから粉骨碎身に勝利を目指したDENSO KOBELCO SARD LC500を駆る、スタート担当のヘイキは序盤にペースの遅い前走車の後方から無理せずチャンスを窺いながらの走行。SC導入される直前に前を塞いでいた17号車と16号車の2台をかわして7位にポジションアップ。さらに自己ベストを更新しながらハイペースで前を追いかける展開となった。18周目にSCが導入され再開後に周囲の数台がピットインしたが、ピットでの混雑を避けてステイアウトする作戦をとると再開2周後の24周目にピットインとなった。



第2スティント：中山が最後まで諦めずに猛追を見せる

ピットアウト後のアウトラップで一時順位を落としてしまうが、タイヤが温まると交代した中山も徐々にペースを掴み前走車を猛追。粘り強く好ペースで前とのギャップを削っていく。トラブル車両をかわし、44周目には38号車をセクター3でかわして6位に浮

上。その後も最後まで諦めない走りを見せた結果、執念の5位フィニッシュを果たした。



ドライバーポイントでは6点を獲得（計14点）でランキング7位、チームポイントでは9点を獲得（計23点）してランキング6位となった。次戦、2年連続の優勝を目指して戦う第4戦は、6月29日（土）・30日（日）にタイのチャン・インターナショナル・サーキットにてシリーズ唯一の海外戦として行われる。

■ヘイキ・コバライネン



「公式練習走行でフィーリングはますますであったが思うほどタイムに結びつかず、修正とコンディション変化への対応もあって改善されていった。決勝はペースの遅い2台を抜きあげてロスしてしまった。そしてまたもやSCが入った。まだまだタイヤ的に走れる状況であったけどピットインを選択。第2スティントのユウイチが最後まで頑張ってくれて5位という結果を得られてハッピー。次のタイでは優勝あるのみだね」

■中山 雄一



「予選Q1では前方のマシンに追いついてしまいアタックのタイミングがズレてしまいました。Q2に残ることができず悔しい結果でしたが、決勝では粘って走った結果5位と連続ポイントを重ねられて幸いでした。ライバル勢に比べてまだまだ自分自身もクルマも速くして行かねばなりませんが毎戦進歩しているので次が楽しみです。次のタイで更に良い走りが出るように準備していきたいと思いますので引き続きご声援よろしくお願いいたします」

■監督 才木 祐二



「2人のドライバーの頑張りで連続ポイントを獲得できたことは良かったですが、同時にライバル勢と比べて差を感じ、課題も見つかる結果となりました。一息ついてタイ戦を迎えますが、これまでの前半戦までの戦いを細かい所まで見直し、さらに良い方向に進めるよう対応していきたいと思います。引き続きご声援のほどよろしくお願い申し上げます」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	WH
1	36	au TOM'S LC500	中嶋 一貴／関口 雄飛	*1'45.775	2
2	37	KeePer TOM'S LC500	平川 亮／N.キャシディ	*1'45.788	8
3	8	ARTA NSX-GT	野尻 智紀／伊沢 拓也	*1'46.207	24
9	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	H.コバライネン／中山 雄一	1'46.949	16

*タイムはQ2ベスト 天候：晴れ、コース：ドライ

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	36	au TOM'S LC500	中嶋 一貴／関口 雄飛	1:47'21.606	52
2	37	KeePer TOM'S LC500	平川 亮／N.キャンディ	+8.071	52
3	6	WAKO'S 4CR LC500	大嶋 和也／山下 健太	+10.534	52
5	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	H.コバライネン／中山 雄一	+34.340	52

天候：晴れ、コース：ドライ、5.807km×52Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	38	立川／石浦	26.5
2	23	松田／クインタレッリ	24.5
3	36	中嶋／関口	22
7	39	コバライネン／中山	14

Point standings after Rd.3

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	38	CERUMO	35.5
2	23	NISMO	28.5
3	8	ARTA	28
6	39	LEXUS TEAM SARD	23

Point standings after Rd.3

Partners

TOYOTA

豊田自動織機

TOYOTA
FINANCIAL SERVICES

inos

GlenD
The Geometric Builder

KARL STORZ NDtec

Altair

MonkeyFlip

LEXUS

AW
AISIN AW

TENNECO

ADVICS

中京化成工業

salomon
ROAD TO PLAY

LG

admic

Racing Development
TRD

JTEKT

千葉トヨペット

小松開発工業

Mizuno

SUUNTO

MAL
TOOLS

Kobelco Steelers
KOBELCO STEEL RUGBY CLUB

BRIDGESTONE

豊田合成

豊田通商

JMS

BBS

ATOMIC

MAKE
WINNER

DENSO

KITO

FUJIMAKI
GROUP

SQUARING

MOTUL

EBBRO

GruppeM
Racing Inc.

Paralym Art
競技用エアースーツを製造しています

KOBELCO

進和

林テレンプ
H

ALI

FLEX

hp

UNIMAT LIFE

情報参照先

- サード公式サイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : <https://twitter.com/LEXUSRACINGSARD>
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/lexus_team_sard/
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp